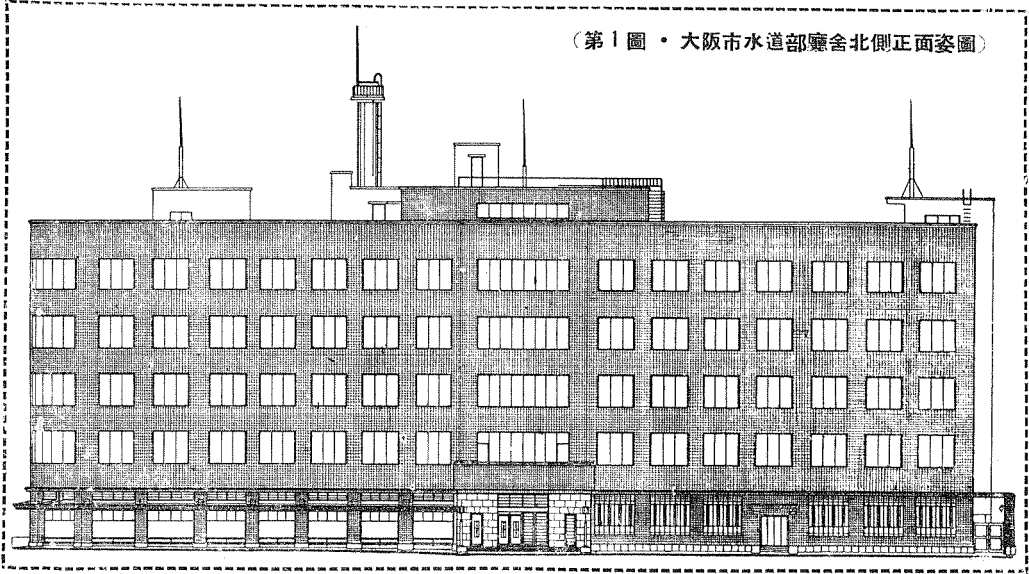


(第1圖・大阪市水道部廳舎北側正面姿圖)



大阪市水道部廳舎建築工事概要

設計 大阪市役所經理部建築課
 施工 合名會社 小坂井組

位置・大阪市北區南扇町自10番地2ノ2至15番地2ノ6。

建築面積・建坪1,974平方米027, 延坪12,448平方米276(3,765坪60ノ)

内譯 地階 2,292平方米122 (空壕抜き建物周圍共)

1階 1,974平方米027

2階 1,985平方米727

3階 同上

4階 1,903平方米979

5階 1,847平方米783

6階 430平方米308

(階段塔屋其他共)

7階 28平方米603

(タンク室、ダクト、煙突共)

空壕(地階) 13平方米356

建物高さ・北側正面玄関前 O. P. 5米642を平均地盤とし、バラベツト天端迄22米85

塔屋高さ 北側正面に於て25米05

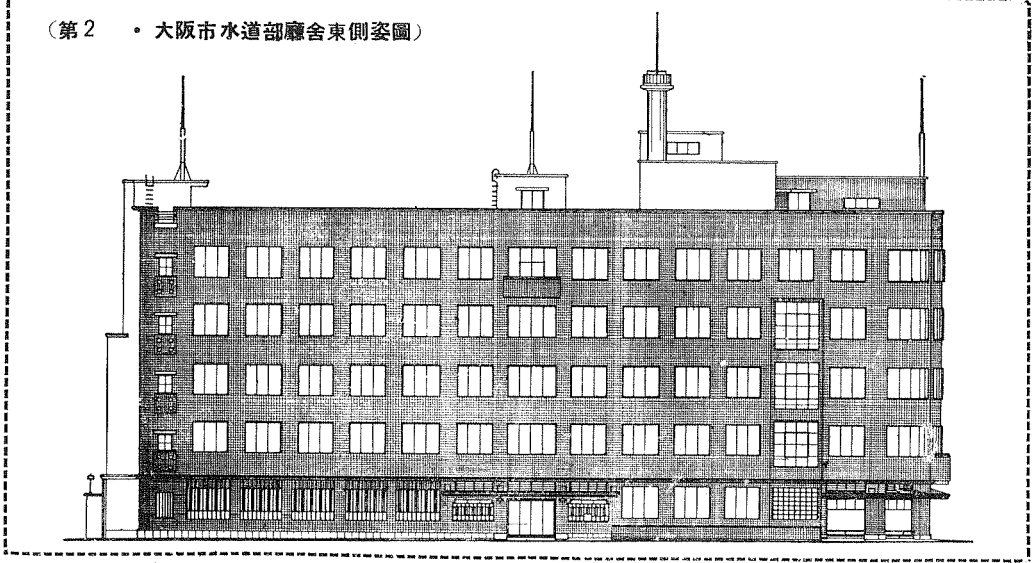
塔屋2階の部分 27米95

西及南塔屋の部分 24米60

基礎の深さは前述地盤より割栗石下端迄4米8乃至6米。

様式・近代式(ビルディング式事務所建築)

(第2 大阪市水道部廳舎東側姿圖)



構造・鐵筋コンクリート構造。

平面計畫・〔地階〕 炊事倉庫、調理室、第1 食堂、理髮室、賣店、便所、小使室、電氣室、機械室、倉庫。

〔1階〕 (料金課) 女關、客溜、營業室 便所、陳列室、診療室、下足室、事務室。

〔2階〕 料金課及給水課) 事務室、第2 食堂、配膳室、便所、書庫、事務室、女子更衣室。

〔3階〕 (庶務課及技術課) 事務室、男便所、物置、湯沸場、廣間、部長室、會議室。

〔4階〕 (下水課) 事務室、便所、湯沸場、エレベーター機械室。

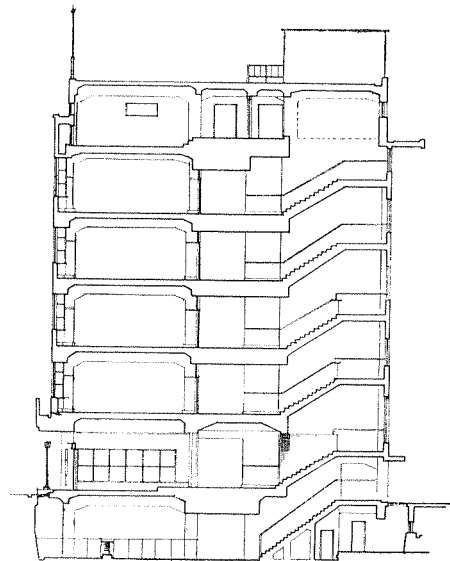
〔5階〕 控室、會議室、圖書室、淨水所、男便所、物置、湯沸場。

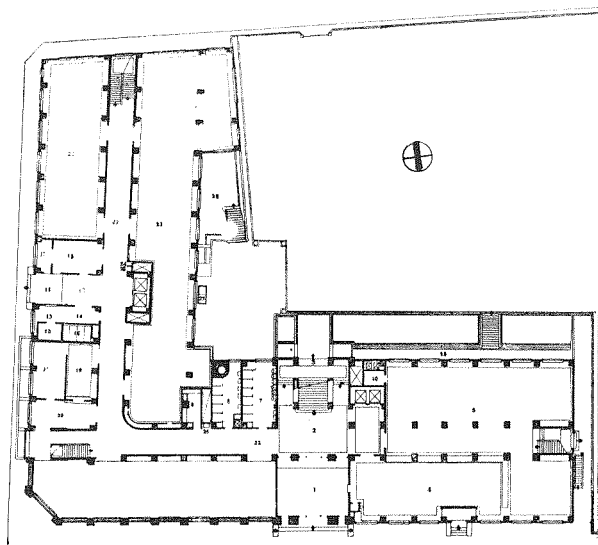
〔屋階〕 中央塔屋、タンク室。

外部仕上・東側及北側犬走りは人造石研出し壁は10種角のタイル張、巾木は花崗石。南及西側外壁は犬走りモルタル(道路側は人造石仕上)壁は色付けモルタル搔取仕上りげである。

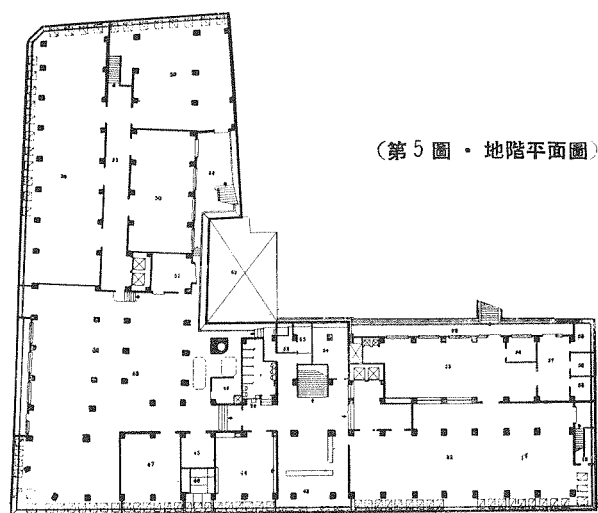
エリヤは壁モルタル塗、床、巾木も同。各庇は上端防水モルタル、下端セメント仕上げ、其他は周圍外壁に倣ふ。

(第3圖・一部断面圖)





(第4圖・一階平面圖)



(第5圖・地階平面圖)

平面圖説明：(1)女關(2)ホール(3)裏出入口(4)客溜(5)營業室 6 陳列室(7)男便所 8 女便所(9)湯沸場(10)物入(11)東出入口 12 ホール 13 受付室(14)守衛詰所(15)吏員宿直室(16)守衛宿直室 17)一般下足置場(18)吏員下足置場 19)待合室(20)薬局 21)診察室(22)廊下 23 事務室(24)メールシユート(25)手洗(26)S K (27)石炭投入口(28)ドライエリヤ(29)書庫(30)女子更衣室(31)電話交換室(32)食堂(33)配膳室(34)應接室(35)部長室 36 會議室(37)物置(38)空氣調節機械室(39)エレベーター機械室(40)豫備室(41)機械室(42)タンク室(43)賣店(44)使丁室(45)機械室 46 使丁宿直室(47)電氣室 48)燻冷房其他機械室 49 芥塵燒却室(50)倉庫(51)石炭庫(52)浴室 53)脱衣室(54)理髮室(55)調理室(56)炊事夫控室(57)炊事倉庫(58)冷藏庫。

屋上露臺床はクリンカー・タイル仕上、バラベツト内側はモルタル仕上、バラベツト上ばは色モルタル(防水層)塔屋上は防水モルタル目地切仕上。

内部仕上・階段、廣間の床は人造石研出し、腰白人造石研出し、壁プaster仕上、天上プaster吹付け。

部長室は床フロアリング・ブロック敷、フロアオイル塗、壁プaster塗上部プaster吹付、天井同じくプaster吹付。會議室、應接室も之に倣ふ。

設計・大阪市役所經理部建築課
監督・大阪市役所水道部技術課
施工・合名會社小坂井組

建築費・主體工事費金70萬圓

附帶設備工事費 25萬圓

計 95萬圓

工期・昭和9年5月11日起工、昭和10年10月竣工。

附帶設備概要

煖房設備・本設備は眞空蒸氣煖房裝置にして汽罐はストーカー焚型鑄鐵製セクショナル蒸氣罐なり。放熱器は日本標準型3柱高さ650耗同800耗及壁掛型で、地階食堂のものは壁面に高さ適當に堅固なるブラケットを取付け之に支持せしむ。

給湯設備・本設備は給湯槽、循環ポンプ等並に之等に屬する配管工事等にして給湯槽は内徑2呎半、長さ5呎の軟銅板製なり。循環ポンプは口径1¹/₂吋、全揚程15呎、揚水量毎分30石以上、電動機直結アウトメタル式渦巻ポンプとす。

換氣設備・本設備は下の如く區分す。

第1系 地階食堂及調理室給氣装置

第2系 地階調理室排氣装置

第3系 地階電気室、使丁室給氣装置

第4系 各階便所排氣装置

第1系統の装置は調理室出入口上部の空気取入口より新鮮なる空気を取入れ調理室に至るものは其まゝ、食堂に至るものは適當溫度まで加熱し夫々レジスターを経て各室に給氣する。扇風機は軸流送風機、電動機 $1\frac{1}{2}$ 馬力、風量240立方メートルである。

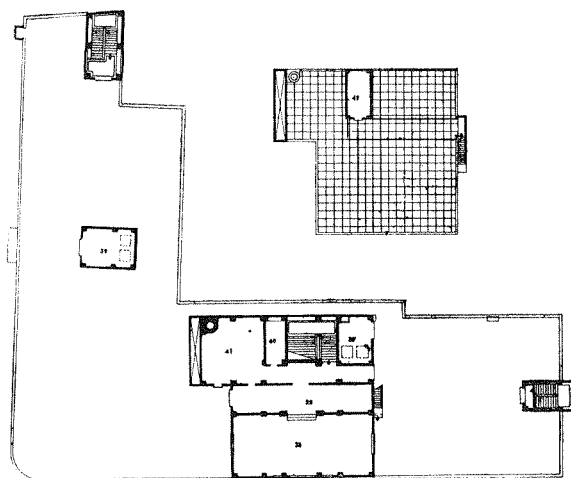
第2系統は調理室の排氣を行ふものにして排氣主管を立上げ室上に於て通風器を取付ける。扇風機は軸流送風機、電動機2馬力付風量200立方メートルである。

第3系統は扇風機1馬力軸流送風機、風量125立方メートル、及び加熱器を備ふ。

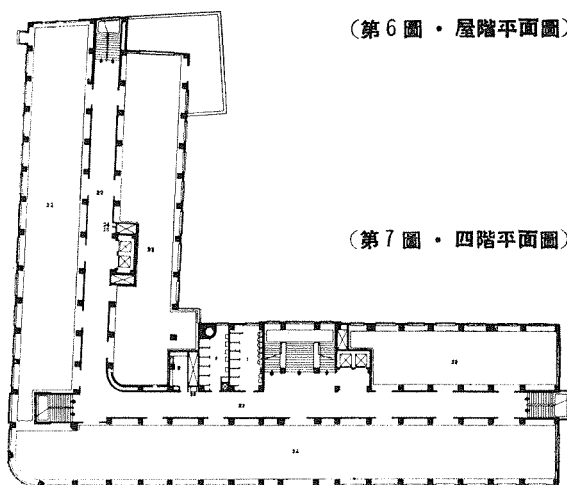
第4系統は第5階天井内に於て主管を横走せしめ豫備室に導き2馬力扇風機(送風量7,500立方呎)を以て屋外に排出する。

飲料水冷却装置・本装置はアムモニヤ式冷凍機其他を設備し自動的に華氏80度の飲料水英200ガロンを10時間に華氏55度に冷却するものなり。

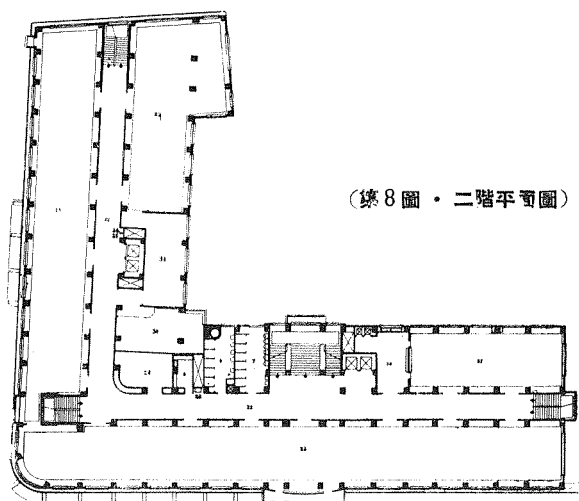
消火装置・地階に消火専用4馬力ガソリンエンジンを直結せるタービンポンプを設備し配管を以て各階消火栓と結ぶ。尙別に屋上貯水槽より4吋給水管により各階消火栓に送水する様にも装置す。ポンプ吸込管は4吋とし市水分離槽より送水を受く、ポンプよりの送水管も4吋にしてゲートバルブ及スモ



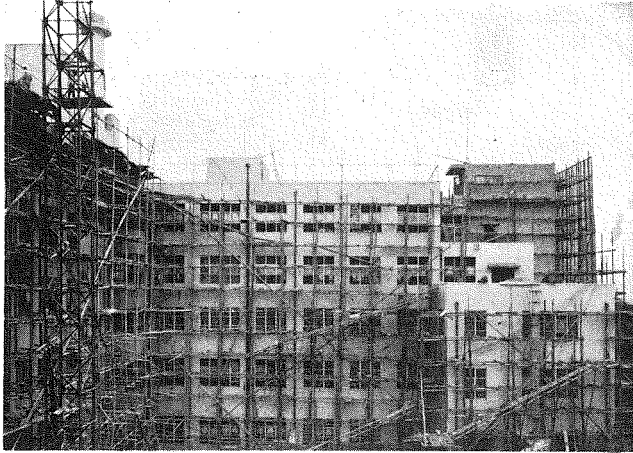
(第6圖・屋階平面圖)



(第7圖・四階平面圖)



(第8圖・二階平面圖)



(9) 竣功迫る大阪市水道廳舎(上)
 (10) 二階事務室の一部(中)
 (11) 二階食堂の一部(下)

レシキキーを経て各階消火栓に給水非常時の警報装置は各階消火栓箱内にスイッチを、ポンプ際に赤色標示燈を、又本市の夜警詰所内に同標示燈及電鈴を備へ、消火栓箱内のスイッチを操作する事により係員に報知する装置なり又前記ポンプを使用せず玄關脇のサイヤミーズコネクションに府消防用ホースを接続し送水を受け得る様に設備す。而して各管の屋外に露出する部分には總て防露工事を施す。防露材は日本アスベスト又は範多商會製ブラインカバーを使用せり。

排水工事・1階以上の男女各便所排水管は室毎に取まとめパイプダクト内に設けたる所屬6吋立管に接続し地階に立下げ天井配管として屋外汚水浄化槽又は屋外一般下水處理管の何れにも自然排水として放流自然放流の不可能なる地階便所は排水ポンプにより自然排水と同様経路に排出す。一般排水は1階以上は屋外天満堀川に自然放流とす。

電氣設備・本設備は電灯、電力、室内配電盤變壓器、電話、電氣時計、時報器等にして、變壓器は容量 50K. V. A. 單相油入自冷

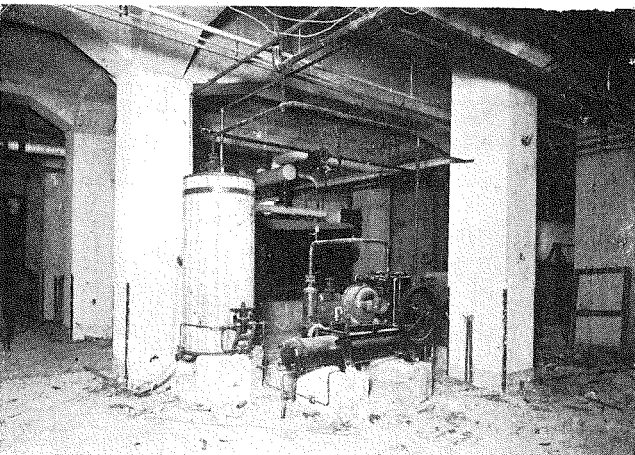
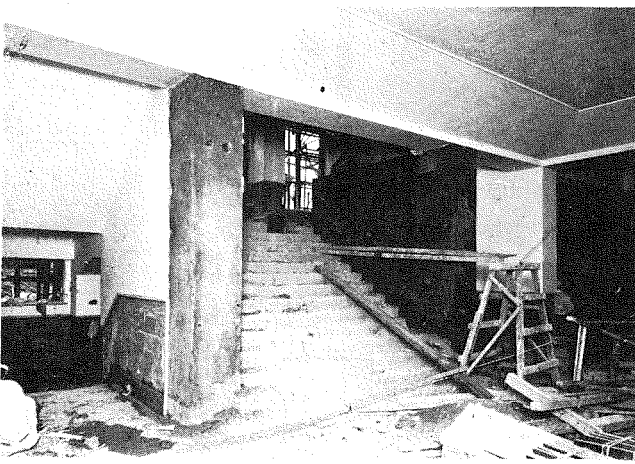
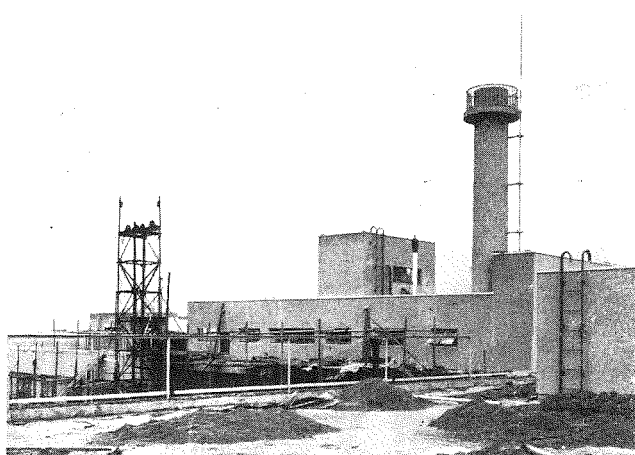
式3臺、電壓1次3,300ボルト、
2次220ボルト 同容量30K.V.A.
単相油入自冷式、電壓1次3,300
ボルト、2次105ボルト3臺、容
量15K.V.A 単相油入自冷式電壓
1次3,300ボルト2次105ボルト
1臺を備ふ。配電盤は高壓及低
壓を1組とす。

電話、電気時計、時報器等は地
下室を除き全部隠蔽工事とし各
階への立上り及立下りはダクト
内配管とす。配管には全部セラ
ーダクトチューブを使用した。

電話引込は地下室にボックスを
設け之よりダクト内を立上り2
階交換室及1階公衆電話器に配
線す。電気時計は3階會議室に
親時計を置き、之より51個の子
時間を操作し得、親時計は据置
型時報信號付胡桃製なり。

塔時計は単相交流100ボルトを
通じ3分の2秒内外通電するこ
とに依り完全に動作し確實に2
分運針す。電気時計一切は富士
電気株式会社、日本電気時計製
作所、東京雄弘社、大阪電気工
業所、大倉商事株式会社等の製
品である。

時報器は親時計及事務室より操
作出来得る様の配線である。



(12) 屋上の一部(上)

(13) 表玄関廣間及階段中

(14) 地階機械室の一部(下)